ひと・夢・まち 町長コラム

「当たり前」とは、不測の事態が起こること。（平成30年12月号） （西郷隆盛・十の「^{おし}訓え」vol.7）

今年も自然災害が日本各地に発生し、多くの方々が犠牲になりました。大雪被害から台風、地震、土砂災害など、予想・想定外の出来事に見舞われた地域の方々には心からお見舞いを申し上げます。

当町でもこうした不測の事態に備えて、このたび、最新の当町独自の防災ハザードマップを全戸に配付しました。不測の事態の中では、その時その場で瞬時に判断し、結論を出して実行に移さなければなりません。冷静に物事の道理を見極め、最善と思える判断をし、対処するための備えはどのようにすればいいのか？ このたび作成した「わが家の防災：もしものときに備えて！」は、まさにその時に役立つようにとの思いで作られています。

災害は必ず発生します。日頃からその意識が大切なのです。

西郷さんが生まれ育った薩摩藩での郷中教育では、「もし、こうしたことが実際に起きたら、その時はどう行動すればいいのか」について毎日のように話し合っていたようです。子どもときから培ってきた精神のようなものです。先日、当町の中山中学校で、中学生が主体となった防災訓練が行われました。昼夜間人口比が県内で最も低いわが町にとって、日中の防災に関して中学生が問題視したことはとても心強く思う反面、深刻な状況と再認識せざるを得ないと思われました。

「災害は当たり前やってくる」ということを意識し、不測の事態が起きたときは、動じない「胆力」と同時に、柔軟な「判断力」、素早い「決断力」、臨機応変な「対応力」を身につけることが必要です。これは、郷中教育で「日常の心得」と言われています。今の時代にも通じる納得の考え方です。